

NIPPON INDIVIDUAL SAVINGS ACCOUNT

【投信調査室コラム】

日本版ISAの道 その51

NISA で何をかう？ 3カ月目は既存投資家(投信全体)ではハイールド債とREIT、新規投資家(NISA 向けファンド)ではアセットアロケーション等やグローバル債が人気。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISA開始から3カ月！

NISA が始まり3カ月が経過した。NISA 投資家の志向はどのようなものだろうか？ 投信の資金動向について月次と週次でみる(月次は2014年3月、週次は2014年3月28日週まで)。NISA 投資家の属性や投資金額についてはまだデータが整備されていないため、既存投資家を中心と思われる投信全体と、投資の未経験者層(新規投資家)を中心と思われるNISA 向けファンドとに分けてみることにする(詳しくは2014年1月20日付日本版ISAの道その42「NISA で何をかう？2014年最初の週は新規投資家(NISA 向けファンド)ではアセットアロケーション等ファンドと日本株ファンドが中心で、既存投資家(投信全体)では日本株ファンドとREIT ファンドが中心のようである。」を参照。)

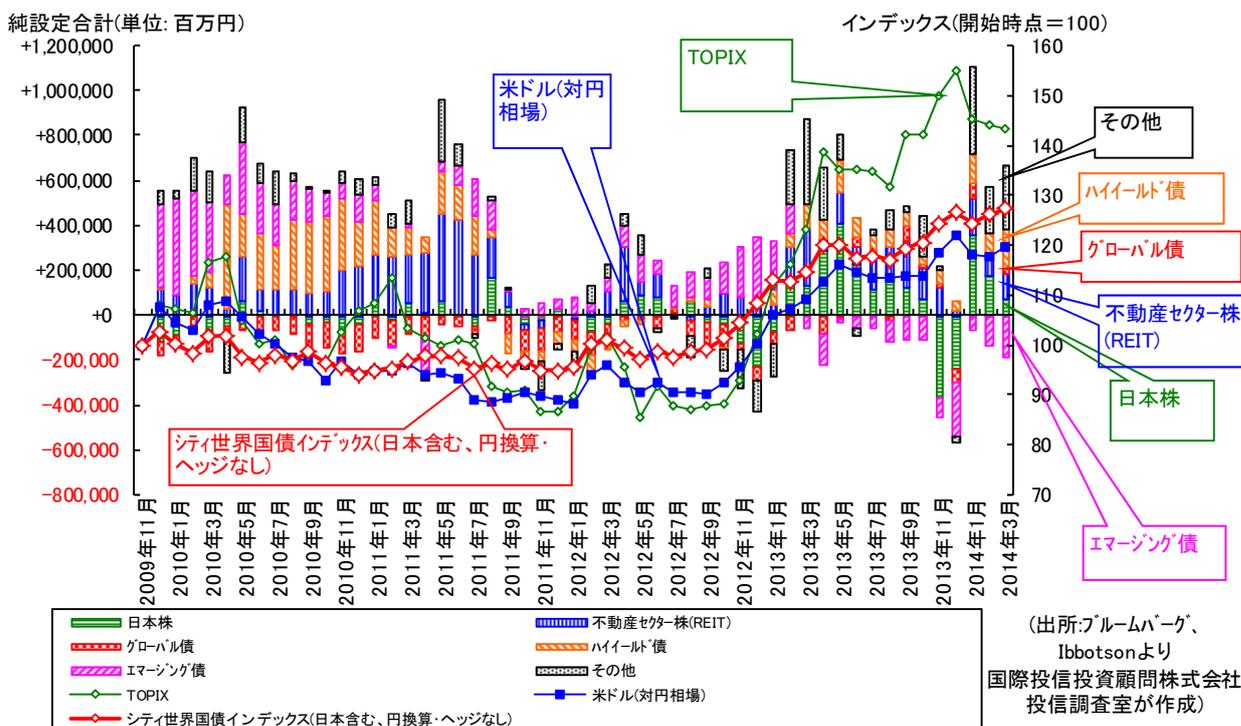
既存投資家(投信全体)では3月はハイールド債ファンドとREIT ファンド

下記グラフは投信全体、「日本の単位型及びETFを除く追加型投信(MMF等日々決算型を除く)」の純設定(推計)である。2014年3月に+4877億円と、3カ月連続の資金純流入で、2014年1月以来の大きさである。その純設定額を分類別に見ると、ハイールド債ファンド、REIT ファンド、その他に含まれる米国大型株ファンド、日本株ファンドが多い。



日本籍の国内投信の主要分類別純設定(推計)の推移
(2009年11月30日～2014年3月31日、月次データ)

*国内投信… 単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)。
インデックス… TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。



日本の投信の分類別月間資金純流入(資金純流入の大きい順)

*単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)。

2014/03/31

順位	分類名 (Morningstar Global Category)	★ 資金 純流入 2014年3月 (百万円)	資金 純流入 2014年・年初来 (百万円)	資金 純流入 2013年1年間 (百万円)	純資産 (百万円)
1	ハイイールド債	+174,807	+396,016	+917,319	5,846,998
2	不動産セクター株(REIT)	+112,870	+359,456	+1,479,879	8,562,967
3	米国大型ブレンド株	+84,036	+252,585	+738,419	1,526,929
4	日本株	+75,646	+608,420	+1,237,293	8,268,981
5	欧州大型株	+72,756	+90,462	+164,518	328,301
6	アセットアロケーション柔軟型	+72,289	+182,721	+365,887	686,027
7	日本債	+47,616	+102,029	+80,584	1,682,578
8	グローバル株	+44,863	+140,309	+848,409	4,895,335
9	米国債券	+39,934	+186,521	+654,977	1,293,652
10	アジアハイブリッド債	+24,438	+56,986	-869,983	2,166,342
11	グローバル債	+22,814	+106,601	-94,913	7,519,983
12	アジア株(除く日本)	+11,775	+51,147	+199,678	769,588
13	ユーロ債	+10,265	+8,607	-39,497	117,274
14	アセットアロケーション慎重型	+4,331	+17,933	+18,288	332,342
15	日本マネー・プール	+1,778	-27,285	+39,178	56,332
16	ターゲットデート2021-2045	+215	+801	+1,126	28,413
17	通貨	+63	-34	+2,043	6,640
18	商品・バスケット	-10	+1,486	-4,200	69,976
19	インフレ連動	-71	-62	-2,086	5,647
20	マーケット・ニュートラル	-108	+1,148	+526	19,470
21	アジア株	-392	-864	-3,570	14,043
22	多種オルタナティブ	-1,100	-592	-22,938	330,037
23	ロング・ショート	-1,884	-6,904	-29,885	51,364
24	その他オルタナティブ	-3,745	+88,285	+85,500	281,036
25	中国株	-5,693	-4,461	-210,944	270,136
26	インド株	-8,958	-19,234	-112,225	363,667
27	CB	-10,820	-25,277	-127,489	342,974
28	アセットアロケーション標準型	-11,057	-22,627	-234,754	1,165,749
29	エマージング株	-38,263	-74,939	-95,649	1,796,972
30	アセットアロケーション積極型	-46,203	-109,812	-284,009	2,661,307
31	エマージング債	-184,469	-387,915	-600,200	6,071,759
	全31分類の合計	+487,722	+437,488	+4,101,280	57,532,819

(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

新規投資家(NISA 向けファンド)ではアセットアロケーション等ファンドと日本株ファンド

次に、NISA 向けと思われる投信について純設定(推計)を見ると、2014年3月の純設定額は+2663億円と、前月2月(+1673億円)やNISAが始まった2014年1月(+2143億円)を上回る大きな資金純流入となっている(*NISA向けファンド…後述)。この純設定を分類別にみると、その他(アセットアロケーション等)ファンドと日本株ファンド、グローバル債ファンドが多い。NISA開始の2014年1月から3月までの年初来合計でみると、日本株ファンドが圧倒的で、次いで、その他(アセットアロケーション等、米国大型ブレンド株)ファンドとなっている。

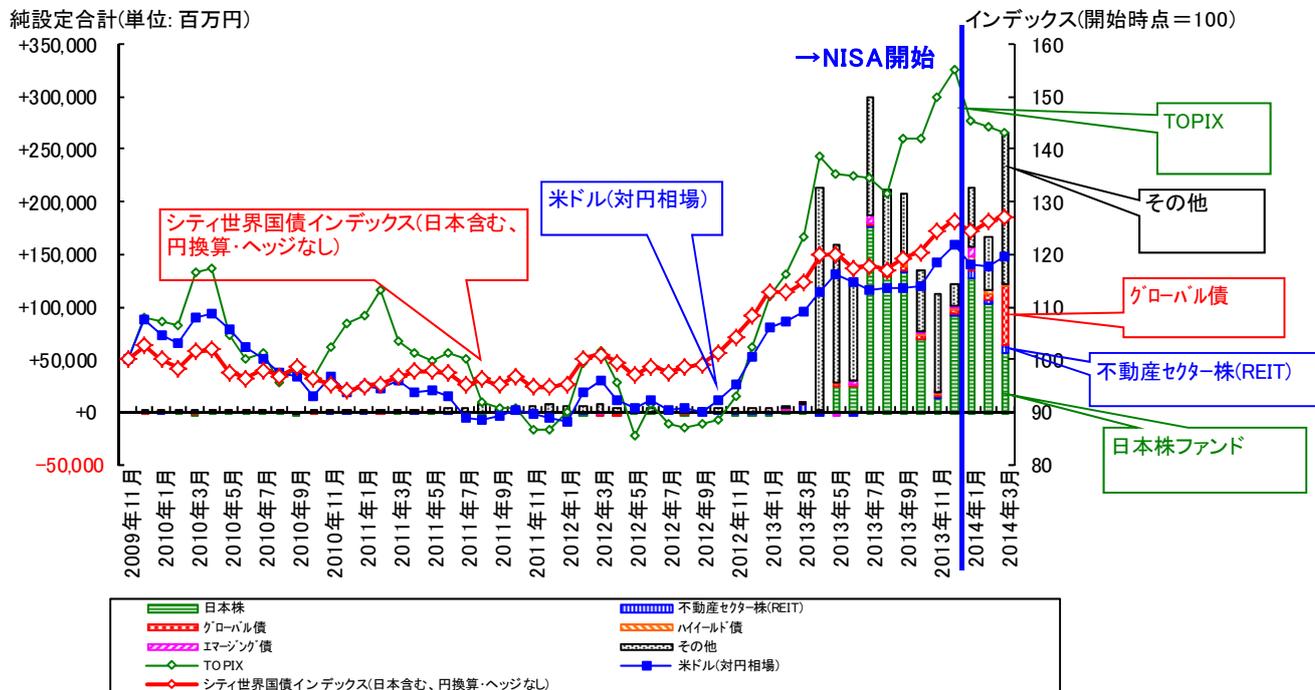


日本籍の NISA向けファンド(ETFを含む追加型)の純設定(推計)の推移
(2009年11月30日 ~ 2014年3月31日、月次データ)

*NISA向けファンド(ETFを含む追加型)… 2014/03/31 現在498本ある現存ファンドについて。

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド
月次・純設定



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

※「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2014 年 3 月 31 日時点で 498 本となった。

ところで、2014 年 3 月 17 日付日本経済新聞朝刊に「1月に始まった少額投資非課税制度(NISA)で、3メガ銀行の専用口座に2カ月間で約560億円の投資資金が流入したことが分かった。…(略)…主要証券会社には1月だけでNISAを通じて3000億円が流入し、7割が株式投資に回った。銀行での利用者の主な投資先は投信だ。」と言う記事があった。

主要証券会社の 1 月 NISA 口座流入 3000 億円の 3 割が投信とすれば 900 億円でその 2 倍(2 カ月分)は 1800 億円。3 メガ銀行の 1~2 月 NISA 口座流入 560 億円をすべて投信と見なせば、計 2360 億円。ここには NISA 向けファンド以外がかなり多いと思われる為(後述)、NISA 向けファンドは 1~2 月で数百億円の可能性が高いと思われる。一方、ここで推計する NISA 向けファンドの純設定は 3816 億円だ(*1 月 2164 億円、2 月 1652 億円)。もちろんここには NISA 口座以外の投信購入が含まれているのでこの差は不思議なものではない。これまで判明してきた各種データからしてかなり大雑把に言えば、ここで計算する NISA 向けファンドの 10 分の 1 以下が実際の純設定額に近いと見るのが良さそうである。いずれしろ、ここでの推計は額ではなく、飽くまでも投資対象の傾向を見る為である事に注意したい。

日本のNISA向けファンドの分類別月間資金純流出入(資金純流入の大きい順)

*NISA向けファンド…ETFを含む追加型。

2014年3月31日

順位	分類名 (Morningstar Global Category)	★ 資金 純流入 2014年3月 (百万円)	資金 純流入 2014年・年初来 (百万円)	資金 純流入 2013年1年間 (百万円)	純資産 (百万円)
1	アセットアロケーション柔軟型	+65,342	+116,364	+100,593	222,359
2	日本株	+57,233	+288,425	+672,619	1,004,199
3	グローバル債	+56,300	+68,177	+26,171	106,770
4	欧州大型株	+47,674	+43,526	+83,957	137,610
5	米国大型ブレンド株	+41,615	+96,837	+213,936	342,474
6	不動産セクター株(REIT)	+6,699	+20,063	+15,296	55,829
7	日本債	+3,418	+8,982	+10,094	24,927
8	米国債券	+2,918	+10,681	+18,289	29,288
9	アジアパシフィック債	+2,697	+4,481	+216	4,871
10	ハイールド債	+2,516	+12,448	+8,232	21,027
11	ユーロ債	+2,312	+2,312	+0	2,312
12	CB	+1,087	+1,031	+14,294	15,518
13	エマージング債	+912	+9,455	+20,333	33,620
14	中国株	+555	+11,291	+0	10,850
15	その他オルタナティブ	+274	+1,487	+946	2,030
16	アセットアロケーション標準型	+267	+1,042	+1,253	2,354
17	日本マネー・プール	+160	-244	+874	630
18	アジア株(除く日本)	+53	+181	+19	206
19	商品・ハスケット	+22	+26	+2	29
20	アセットアロケーション慎重型	+5	+73	+22	95
21	アセットアロケーション積極型	-1,159	+587	+74,669	76,212
22	多種オルタナティブ	-1,953	-6,325	-25,103	32,585
23	エマージング株	-4,418	+1,353	+35,323	59,866
24	グローバル株	-18,188	-44,269	+343,041	379,514
	全24分類の合計	+266,341	+647,984	+1,615,076	2,565,175

(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

既存投資家(投信全体)では3月最終週はハイールド債とREIT

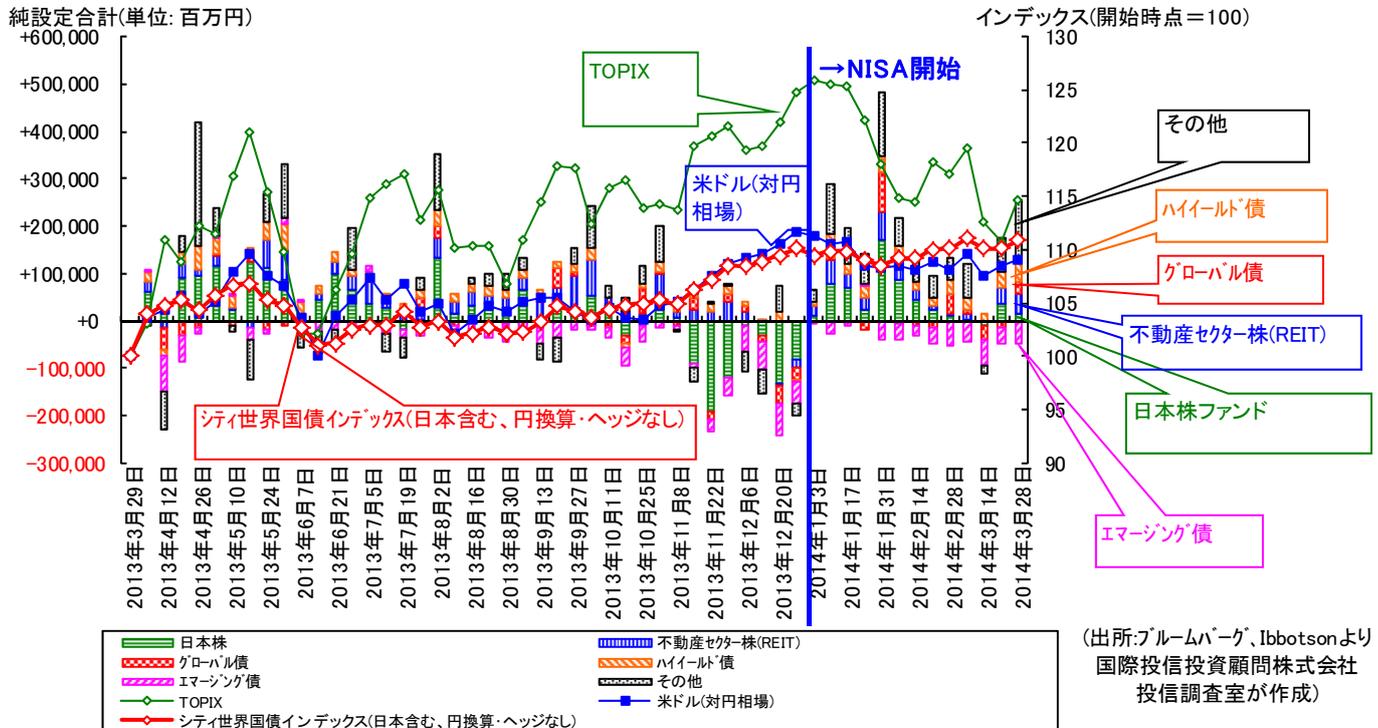
ここまでは月次でみてきたが、NISA が開始してまだ3カ月、4月にかけての勢いを知るために週次で細かくみる。次頁のグラフは投信全体の直近1年間の資金フローを週次でみたものである。最新2014年3月28日週の純設定は+2072億円と、2014年1月31日週以来の大きな資金純流入である。分類別にみると、1位はハイールド債ファンドで、次いでその他(アセットアロケーション柔軟型ファンド)とREITファンドが多い。前述の3月・月次と同様に、ハイールド債とREITファンドに資金が集まっている。



日本籍の国内投信の純設定(推計)の推移
(2013年3月29日 ~ 2014年3月28日、週次データ)

*国内投信…(単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)。
インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本国内投信
週次・純設定



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより
国際投信投資顧問株式会社
投信調査室が作成)

新規投資家(NISA 向けファンド)ではアセットアロケーション等とグローバル債

次に、NISA 向けと思われる投信について週次の純設定(推計)を見ると、最新 2014 年 3 月 28 日週に+841 億円と、2013 年 4 月 12 日週から連続の資金純流入であり、NISA 開始以来で最大の純流入額である。分類別にみると、その他(アセットアロケーション等)ファンド、グローバル債ファンド、日本株ファンドが多い。

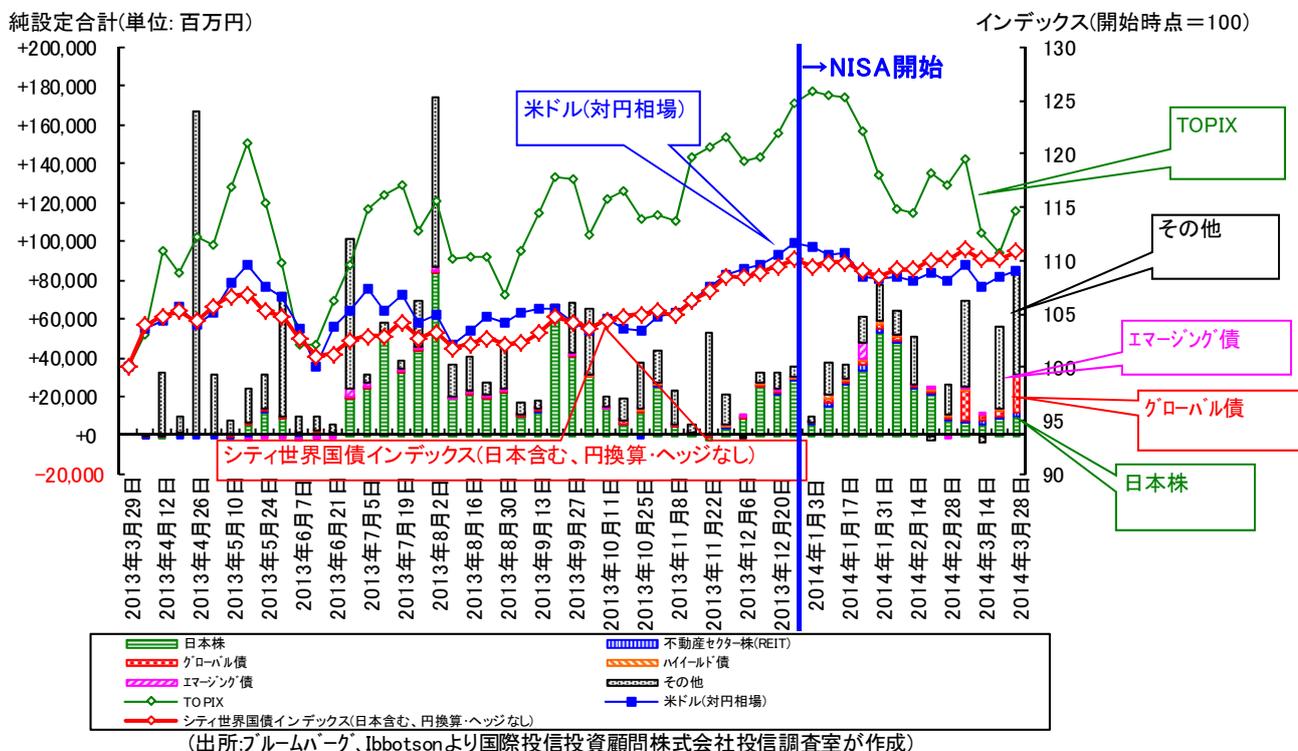
前述したように、月次ではアセットアロケーション等ファンドや日本株ファンドが引き続き大きいですが、足元では日本株ファンドが減少、アセットアロケーション等ファンドが大きくなるとともに、新しくグローバル債ファンドへの資金が増えてきている様である。

日本籍の NISA向けファンド(ETFを含む追加型)の純設定(推計)の推移
(2013年3月29日 ~ 2014年3月28日、週次データ)

*NISA向けファンド(ETFを含む追加型)… 2014/03/28 現在498本ある現存ファンドについて。

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド
週次・純設定



以上をまとめると、既存投資家(投信全体)ではハイールド債ファンドと REIT ファンドが人気であり、「投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層」を中心とする新規投資家(NISA 向けファンド)では引き続きアセットアロケーション等ファンドと、足元でグローバル債ファンドが人気と言う事になる。

実際、NISA の利用者は既存投資家が多く、資産運用のひとつの手段として活用するため、購入額や件数ではこうした既存投資家の占める分が相当あると思われる。「NISA、高齢者ほど一括投資」(4月2日付け日本経済新聞朝刊)とあることや、若い層は毎月小口からの積立投資も選択肢としてあることから、NISA 全体の動向は当面は既存投資家の志向が反映すると思われる。

SBI証券が3月24日~28日のNISA口座の買付金額ランキングを発表しているが、株式については、2014年4月2日現在3.1%の配当利回りを持つみずほフィナンシャルグループ(8411)が1位で、投信では上位1~4位に毎月分配型のREITファンド、5位に毎月分配型の通貨選択型ファンドとなっている(URLは後述[参考ホームページ])。楽天証券も同様に3月20日~27日におけるNISAの投信とETF/ETNの買付金額ランキングを発表しており、投信では上位1~5位(3位を除く)・8・9位に毎月分配型のREITファンド、3位に毎月分配型の通貨選択型ファンド、6・7位に日本株ファンド、10位にハイールド債ファンド、ETFでは上位1~3位を日本株ファンド(*日本株のレバレッジ・ブルを含む)が占め、4・5位はREITファンドとなっている(URLは後述[参考ホームページ])。この結果は前述のNISA向けファンドより、投信全体の資金フローの上位に近いものである。3カ月が経過、かなりNISA関連のデータも揃ってきたが、確実なものはまだまだである。引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見てNISA動向を判断していきたいものである。

[参考ホームページ]

SBI証券のNISA口座ランキング…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、楽天証券のNISA投資信託 買付金額ランキング…「<https://www.rakuten-sec.co.jp>」、2014年4月2日付け日本経済新聞「NISA、高齢者ほど一括投資」…「<http://www.nikkei.com/article/DGXDZO69209770R00C14A4PPE000/>」、2014年3月17日付け日本経済新聞「NISAに560億円流入、3メガ銀、開始2ヵ月、初心者多く。」…「<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO68386900W4A310C1NN7000/>」、2014年1月20日付日本版ISAの道その42「NISAで何を買う？2014年最初の週は新規投資家(NISA向けファンド)ではアセットアロケーション等ファンドと日本株ファンドが中心で、既存投資家(投信全体)では日本株ファンドとREITファンドが中心のようである。」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140120.pdf>」)

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクの開発したものです。